

(学年) 第1学年 (教科・科目) 芸術・書道 I

個別学習

(単元) 漢字の書 行書の学習

(本時のねらい)

- ・これまでの学習で鑑賞の観点をも身につけてきた。
- ・王羲之と顔真卿の書を比較分析して臨書することで、感性を高め書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。書道の伝統と文化についての理解を深めさせたい。

(ICT 活用方法)

- ・王羲之、顔真卿それぞれの古典を比較し行書について理解を深めるため、1人1台端末を活用する。字調べをするとき、従来は書道辞典を用いて索引していたが1人1台端末を使用することで字調べを素早く行うことができる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	・必要な道具の準備 (下敷き・文鎮・硯・墨液)	・準備を促す ・プリント配布	
展開 30分	・プリント・教科書を使って時代背景を知る。  ・王羲之「蘭亭序」・顔真卿「祭姪文稿」を鑑賞して発表。  ・半紙に臨書	・書き手により書表現が大きく異なることに着目させる。  ・2つの古典を比較しながら鑑賞する。	・1人1台端末を用いて王羲之「蘭亭序」・顔真卿「祭姪文稿」の画像を見ながら両方とも臨書する。  ・書き順や形など分からない文字が出てきた場合、1人1台端末を用いて他の古典を見ながら字の書き方を調べる。
まとめ 5分	・プリント提出 ・作品提出	・プリント ・作品評価	

20710 書道 I\_3\_302 個別\_行書の学習

(授業の様子)



(生徒の反応と課題，改善を要する点)

生徒端末から調べた文字の方が大きくて見やすいとのことでした。辞書を使うより生徒端末からすぐに書きたい古典作品が出せるのはとても良いと思った。古典作品の画像の鮮明度など，課題は多くあると思った。